

B コース①【介護と仕事の両立推進事業】

取組の実施状況

企業名	株式会社エムケイワン
所在地	東京都品川区北品川一丁目3番18号
業種	(O) 教育、学習支援業
常用労働者数	4
事業内容	珈琲焙煎業
ホームページ	なし
1 ニーズ調査	
① 実施日	令和8年1月16日
② 方法	アンケート用紙全従業員に手渡し配布
② 回収率	対象者(都内勤務全従業員)4名のうち回収数4名 回収率100%(回収数/対象者)
④ 調査結果概要	(調査により明らかになった課題) 1.現在の従業員の介護状況、介護対象者の有無について 現時点で、介護を理由として長期休業や離職に至っている従業員は多くない一方で、高齢の親を持つスタッフ家族の体調変化をきっかけに、介護の可能性を意識し始めているスタッフが存在し、介護が身近な問題として認識されつつある。女性スタッフが多く、将来的に介護の中心的役割を担う可能性が高い層が多い。 2.今後の従業員の介護見込みについて 直ちに介護が必要になるケースは多くないものの、数年以内に介護が始まる可能性を感じている従業員が一定数いる。介護は「突然始まる」「予測しにくいもの」という認識が強く、仕事との両立ができるかどうか不安を感じている。少人数体制であるため、一人の事情が事業運営全体に影響しやすいという懸念がある 3.就業規則・規程内の介護関係制度に関する認知状況について 就業規則や介護休業・介護休暇制度について、制度があるかどうか、内容を具体的に把握している従業員は多くない。実際には、困ったときは経営者や上司に直接相談する。個別に柔軟な対応をしてもらえという運用に頼っている。そのため、制度としての基準や利用の目安が見えにくい。 4.介護と仕事の両立に関する不安について 主な不安として考えられるのは、急な休みや勤務変更が必要になった場合、他のスタッフに負担が集中すること。施術・接客・焙煎など、代替が難しい業務への影響、収入の減少や雇用継続への不安、女性スタッフが多く、互いに気遣う風土がある一方で、「迷惑をかけたくない」「相談しにくい」という心理的負担が生じやすい。 5.介護が続いた場合の望ましい働き方・社内制度について 従業員が望んでいる方向性は、勤務時間・日数を柔軟に調整できる働き方、体力や家庭状況に応じて業務内容を調整できる仕組み。一時的に働き方を変えても、状況が落ち着けば元に戻れる安心感。制度の厳格さよりも、安心して相談できる姿勢や対応の柔軟性が重視されている。長く働き続けたいという意欲は高く、仕事と生活の両立を前提とした働き方を求めている。 (課題) 現在は深刻化していないが、介護は近い将来に顕在化する可能性が高い 少人数・多業種のため、一人の介護事情が事業全体に影響しやすい 介護制度が就業規則にあっても、内容や利用方法が十分に共有されていない 個別対応に依存しており、対応基準や判断の目安が不明確 代替が難しい業務が多く、急な休業・時短への不安が大きい 周囲への配慮から、本音で相談しづらい心理的ハードルがある

	介護が長期化した場合の働き方の選択肢(段階的対応)が整理されていない 良好な人間関係や柔軟対応という強みが、制度として言語化されていない (会社の強み) 珈琲焙煎業が主業。ほかにマッサージサロンを経営して多角化を行っている 少人数で距離が近く、相談しやすい関係性がある 多業種展開のため、業務調整の余地を作りやすい可能性がある 今の段階で制度化を進めれば、介護による離職を防ぎやすい			
2プロジェクトチームの設置及び運営状況				
① 設置日	令和7年12月20日			
②メンバー	総計2名(うち都内勤務の従業員1名) (メンバー内訳)施術スタッフ、業務スタッフ			
③運営状況	開催日	開催時間	検討内容	参加者数
	12月20日	11:00-11:30	活動内容及びスケジュールの確認	2名
	1月18日	15:00-15:30	調査結果概要説明、取組案の提示	2名
	1月24日	11:00-11:30	取組案についての意見交換、確定	2名
3 策定した取組計画(内容及び取組時期)				
令和8年4月~定期的な個人面談の実施(年1回程度)				
令和8年5月~介護と仕事の両立に関する研修の実施(年1回程度)				
4 経営者・管理職への体験型研修の実施				
有り・無し(いずれかに○)				